

2013年10月13日(日)放送
のんびりゆったり路線バスの旅

「太陽と笑顔につつまれて ～鹿児島 奄美大島～」

路線バスにゆられて、のんびりゆったり旅をしたい。
今回の舞台は九州と沖縄のちょうど真ん中あたりに
位置する、鹿児島県の奄美大島。
周囲460km、鉄道のない島で
日々の暮らしを運んでいるのは路線バスです。



車窓にはまぶしいさんごの海



東京から1200km、初めての奄美に心躍らせて
降り立ったのは俳優の平岳大さんです。

奄美空港を出発し北から南まで、バスで行ける
ところまで！

走行距離200km、リュックひとつで路線バスを
乗り継いだ3日間。緑の大地と青く澄んださんごの
海、そして純粋で優しい奄美の皆さんの笑顔。
一瞬一瞬が輝いて、忘れ得ぬ旅となりました。

旅人:俳優 平岳大

【お問い合わせ情報】

(旅程)

奄美空港を出発、最北端のバス停「佐仁」へ。伝統の祭りを前に、うたと踊りの練習をする集落の皆さんに遭遇。躍動感あふれる踊りの輪に入れてもらうと、あっという間に心はひとつに。別れを惜しみつつ大島の中心・名瀬へ…向かう途中、鮮魚店の魅力的なのぼりに思わず途中下車。お店の大将に「とにかく人がいいから！」とすすめられて翌日は宇検村(うけんそん)に行ってみることに。

2日目、名瀬を出発して西海岸の宇検村へ。バスを乗り継ぎ、果てしなく続くかと思われた海岸沿いの道を行くと、その先に待っていたのは家族のように寄り添って暮らす集落の皆さんとの温かい出会い。



3日目、最南端のバス停「徳浜」がある加計呂麻島へ。新聞や荷物も届け、おばあちゃんを慕う少年の気持ちも運ぶ島のバス。胸いっぱいの旅のゴールは太平洋の水平線でした。



※運賃について

今回、加計呂麻島以外は全て「道の島交通」のバスに乗車。
同社の「3日間乗り放題パス(4000円)」を利用しました。

【1日目】

① 奄美空港→佐仁（道の島交通 佐仁方面行き）

所要時間 25分

奄美空港前のバス乗り場から乗車。運転手さんから「終点の佐仁に僕ん家があるから寄って
いかない？」と誘っていただき、お宅へ。なんとお庭のグアバをご馳走になりました。平さん、
グアバのジュースは大好きだけど生の、しかもお庭の木になっている実をいただくなんて
初めて。甘さに、皮のほのかな渋味が加わって、とってもおいしかったそうです。

次のバスまで2時間。いただいたグアバ片手に、心地よい風に吹かれて集落を散策している
と太鼓の音が。伝統のお祭り「八月踊り」を前に、子どもたちが特訓中でした。

旧暦八月に行われる「八月踊り」はもともとは火災を防ぐ祈願行事だったものが、五穀豊穡を
祈るうたと踊りとして、大切に伝えられてきました。全員でうたいながら踊る集団舞踊で、男女
の掛け合いから構成される独特の響きは圧倒的！

八月踊りは見るものではなく参加するものだと、平さんも踊りの輪に入れていただきました。



誰もが踊りの名手！

空気を震わす力強いうたごえ

「初めてでこんなに踊れる人いないよ！」

最初はゆっくり始まり、どんどんテンポが速くなっていくにつれ、全員のうたと踊り・太鼓・指笛
が一体感を増して躍動感にあふれ、笑顔がはじける…すべての人の胸に、今ここに一緒に
居ることの幸せが湧きあがっているような時間でした。

バスの見送りに来てくれた子どもたちとおしゃべりしていると、これ食べてみてー！とお母さん
たち。茹でた「田芋(浅く水をはった畑で育てる)」はモチモチとして和菓子のように。にがうりに
乳酸飲料をプラスした特製ジュースはパンチがきいていて元気が湧きました。



まっすぐに可愛い子どもたちに見送ってもらいながら、
もう胸がいっぱい。まだ奄美にやって来たばかりなのに！

② 佐仁→赤尾木局前（道の島交通 北大島線 与儀又行き）

所要時間 56分



奄美大島の中心・名瀬まで行って泊まり、翌朝南に向かおうとバスに乗り込んだものの、鮮魚店の「おさしみまつり」ののぼりを発見して赤尾木局前バス停で下車。



鮮魚店の店頭には迫力サイズのお魚がズラリ！ここ赤尾木地区は東シナ海と太平洋にはさまれた大島の「くびれ」の部分で、両方の海の幸を味わうことができる“おさしみまつり”な場所。

鮮魚店では濃厚な味わいのチョウセンサザエをいただき、大将から「奄美に来たら宇検村、特に平田（へだ）集落に行くといい。人がいいから！奄美に生まれ育った自分でも、心洗われる大好きな場所」とすすめられました。

③ 赤尾木局前→市役所前（道の島交通 北大島線 与儀又行き）

所要時間 38分

明日は宇検村に行こうと決めて名瀬へ移動。すてきな出会いがいっぱいの1日目終了。

【2日目】

① 道の島交通本社前→ 新村（道の島交通 南大島線 古仁屋行き）

所要時間 42分

朝、道の島交通本社で宇検村への行き方を教えてもらいました。乗り換えは2回。ひとつ目の乗り換えポイント新村を目指し古仁屋行きに乗車。

車内では宇検村・屋鈍集落の自宅へ帰る、というお母さんと乗り合わせました。鮮魚店で教えてもらった平田集落は屋鈍の2つ手前なのでお母さんとご一緒させていただくことに。



② 新村→湯湾（道の島交通 宇検線 宇検行き）

所要時間 33分

新村に到着すると既に待機していた宇検線のバスに乗り換え。宇検村の湯湾まで行きます。奄美というと海のイメージが強いけれど、宇検村に向かう道は山また山。昨日訪れた佐仁など北部には平野がひろがっていますが、中南部には濃い緑が美しい、山々が連なっています。

③ 湯湾→屋鈍（道の島交通 宇検線 屋鈍行き）

所要時間 45分

湯湾からのバスは焼内湾をはさんで2つの路線に分かれます。湾の北側に行く宇検行きと、南側に行く屋鈍行きです。

屋鈍行きに乗り込むと、バスは湖のように穏やかな焼内湾を右手にのぞみながら、入りくんだ海岸線を一针一针縫い進めるように走ります。

振り返れば通って来た道が、前方にはこれから通る道がすべて見え、地図と照らし合わせて「まだここなんだ、遠いなあ」とつぶやく平さん。

でも「昔はこの道もなく舟で行き来してたから、今はずいぶん便利になったよ」と笑う屋鈍のお母さん。息子さんの店を手伝うため、毎週片道2時間かけて名瀬に通っていると聞いて延々と続く長い道がとても尊いものに思えました。お母さんを送り届ける路線バスがかけがえないものだと知りました。

屋鈍の海



平さん、バスの終点である屋鈍まで行ってみることにしました。屋鈍では、お母さんが「キャーはずかしい」とおっしゃったので撮影はしなかったのですが、平さんがお弁当を持参していることを知って「うちで食べて行ったら？」と誘ってくださり、お言葉に甘えてしまいました。

お宅では特製のにんにくの塩漬けをご馳走になりました。

そのおいしかったこと！爽やかな味、ズラリと並んだお漬物の大きな瓶、お料理上手なお母さんの笑顔が忘れられません。

屋鈍では思いがけずロマンチストの運転手さんのオカリナ演奏を楽しませていただきました。



「オカリナを始めたきっかけはね…」

「ロマンチックだなあ！」

④ 屋鈍→平田（道の島交通 宇検線 湯湾行き）

所要時間 6分

終点の屋鈍から湯湾へ折り返すバスで昨日、赤尾木の鮮魚店で教えてもらった平田集落へ。

到着するやいなやバス停前の共同売店で釣りえさを購入！

「今日は絶対釣れる気がする！」と大張りきりで港へ向かう平さん、手には2012年10月放送“神話の里をゆく ～宮崎 高千穂～”で買った自慢の釣りざお。

ところが…



一度はさおが「持っていかれるかも！」というほどしなっただけれど（『1mくらいあった』※平さんサイドの発表）、釣果は…。隣で見事ヒラアジの子どもを釣りあげた少年が平さんを気遣ってか、集落の皆さんが集っている筏に案内してくれました。



そこにはおいしそうなお刺身やおかずが並び、楽しそうにおしゃべりする地元の皆さんが。

10年ほど前から、魚を釣ってきた人が夕方皆に魚を振る舞い始めたのがきっかけで今では夏の夕暮れ、おかずや焼酎を持ち寄り、みんなで一緒に晩ごはんを食べるようになったのだそうです。



平さんを案内してくれた少年と、その横に座って優しく世話をしている方はてっきり親子だと思っていたら、男性の方は集落でもとびきり面倒見がよいと慕われる前田尚登さん、少年は隣の集落の子でした。

日頃から可愛がっているお隣の子はもちろん、初めて出会った旅人も、まるで家族の一員のように迎えてくださった平田集落の皆さん！本当にありがとうございました。楽しいおしゃべりで、晩ごはんは夜遅くまで続きました。

この界限には宿泊施設がなく、バスの便も④が最後でした。「湯湾まで行けば宿がある」とのこと、地元の方が湯湾まで送ってくださり、宿泊。湯湾に向かう道中、見上げた夜空に平さんが感嘆の声をあげました。まばゆい星が漆黒の空を隙間なく覆い尽くしていたのです。「生まれて初めて天の川見た…」と何度も何度もつぶやく平さんでした。

【3日目】

① 湯湾→新村（道の島交通 宇検線 新村行き）

所要時間 33分

最南端のバス停・徳浜がある加計呂麻島に向かうため、南へ。まずは新村まで戻り、古仁屋行きのバスに乗り換えます。

② 新村→古仁屋 海の駅（道の島交通 南大島線 古仁屋行き）

所要時間 38分

古仁屋は奄美大島の南の拠点で加計呂麻行きフェリーの発着する港町。バスの車窓から見える海の透明度、青さに驚かされます。

「オレの心みたい。それくらい透き通ってる」と言い張る平さん。

③ 古仁屋港→生間港（瀬戸内町営フェリーかけろま 生間行き）

所要時間 20分 運賃260円

海の駅で瀬戸内町営フェリーに乗船！加計呂麻島には生間(いけんま)と瀬相という2つの港があり、最南端のバス停・徳浜に接続しているのは生間港です。

④ 生間港→徳浜(加計呂麻バス)

所要時間 32分 運賃560円

加計呂麻バスは2つの港を発着する1日14便のフェリーに合わせて運行されており、港と各集落を結んでいます。

また島には新聞販売店や宅急便の取次店などないので、このバスは新聞や荷物も届けてくれるのです。

平さんと乗り合わせた中学1年生の少年は大好きなおばあちゃんを訪ねて古仁屋からやってきたとのこと。また、島に大きなお店がないので古仁屋で1週間分の買い物をしてきたお客さんを運転手さんがいつものようにお手伝いします。



暮らしや人の思いに寄りそうバスに乗り合わせた平さん。

バスの、そして旅の終点はもう目の前です。

終点の徳浜で降りると、海に向かってのびる1本道、その先に青い太平洋が！

思わず駆け出し、少年のように海に飛び込む平さん。

清々しい真っ白な波がふちどる水平線が走行距離200kmのバス旅のゴールでした。



(お問い合わせ)

【奄美大島のバスについて】

道の島交通株式会社 0997-52-0509

【加計呂麻島のバスについて】

加計呂麻バス有限会社 0997-75-0447

【加計呂麻島に渡る瀬戸内町営フェリーかけろまについて】

古仁屋待合所 0997-72-3771

【奄美大島の観光について】

奄美大島観光案内所 0997-57-6233

【加計呂麻島の観光について】

瀬戸内町観光協会 0997-72-4567

